

2019春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス N o . 1

2019年2月7日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連 合 第 3 1 回 中 央 委 員 会

**全単組が一丸となって、すべてのJR関係労働者の
「底上げ・底支え」「格差是正」を図ろう！**

2019 春 季 生 活 闘 争 方 針 を 決 定

月例賃金総額 6,000 円以上の引き上げ、うち純ベア 3,000 円要求

J R 連 合 は、2 月 5 日、静 岡 市 内 で 第 3 1 回 中 央 委 員 会 を 開 催 し、2 0 1 9 春 季 生 活 闘 争 を は じ め と し た 諸 課 題 に 対 す る 当 面 の 活 動 方 針 を 決 定 し た。

冒 頭、執 行 部 を 代 表 し て あ い さ つ に 立 っ た 松 岡 会 長 は「本 年 は 大 き な 節 目 を 迎 え る」と し て、I L O 創 設 100 周 年、連 合 結 成 30 周 年、12 年 に 一 度 の 統 一 地 方 選 挙 と 参 議 院 議 員 選 挙 の 同 年 実 施、ラ グ ビ ー W 杯 の 日 本 開 催、さ ら に は「平 成」か ら 新 元 号 に よ る 新 た な 時 代 へ と 移 り 変 わ る こ と に 触 れ、「様 々 な 課 題 に 迅 速 か つ 柔 軟 に な り 組 ま な け れ ば な ら な い」と し、安 全 確 立・2 0 1 9 春 季 生 活 闘 争、民 主 化 闘 争 完 遂、産 業 政 策 課 題 解 決、各 選 挙 で の 必 勝 と い っ た J R 連 合 が 直 面 す る 諸 課 題 に つ い て 所 信 を 表 明 し、積 極 的 な 議 論 を 要 請 し た。

ま た、J R 連 合 に 新 た に 加 盟 し た J R 四 国 ホ テ ル ズ ユ ニ オ ン、J R 徳 島 駅 ビ ル 開 発 ユ ニ オ ン、J R 九 州 エ ン ジ ニ ア リ ン グ 労 働 組 合、J R 九 州 サ ー ビ ス サ ポ ー ト 労 働 組 合、J R 西 日 本 住 宅 サ ー ビ ス 労 働 組 合 に 対 し て 加 盟 証 書 が 授 与 さ れ、参 加 者 全 員 で 歓 迎 し た。

さ ら に、来 賓 と し て、第 25 回 参 議 院 議 員 選 挙 に 出 馬 す る 予 定 で あ る、J R 連 合 国 会 議 員 懇 談 会 会 長 の 榛 葉 賀 津 也 参 議 院 議 員 と 同 幹 事 の 長 浜 博 行 参 議 院 議 員 が 出 席 し、J R 連 合 へ の 連 帯 ・ 激 励 の あ い さ つ を 行 っ た。

議 事 で は、執 行 部 か ら 当 面 の 活 動 方 針 案 お よ び「規 約 ・ 諸 規 則 の 一 部 改 正」等 を 提 起。こ れ ら を 補 強 す べ く 出 席 し た 中 央 委 員 ・ 特 別 中 央 委 員 1 1 人 か ら の 発 言 が あ り、執 行 部 か ら の 中 間 答 弁、河 村 事 務 局 長 の 総 括 答 弁 を 経 て、満 場 一 致 で 承 認 さ れ た。

中 で も 直 近 の 最 重 要 課 題 で あ る 2 0 1 9 春 季 生 活 闘 争 に つ い て、J R 連 合 が 連 合 の 一 員 と し て の 役 割 を 果 た す と と も に、「中 期 労 働 政 策 ビ ジ ョ ン (2 0 1 4 ~ 2 0 1 8)」の 最 終 年 度 と し て、す べ て の J R 関 係 労 働 者 に と っ て、あ る べ き 働 き 方 と 目 標 賃 金 を 実 現 す る た め、「月 例 賃 金 の 引 き 上 げ」を 基 軸 と し つ つ、す べ て の 労 働 条 件 を 点 検 し 改 善 を 図 る「総 合 生 活 改 善 闘 争」に 取 り 組 む こ と と し た。特 に、人 手 不 足 が 深 刻 さ を 増 す グ ル ー プ 会 社 で 働 く 労 働 者 の 労 働 条 件 向 上 を 念 頭 に 置 き、J R グ ル ー プ 全 体 で 生 み 出 し た 付 加 価 値 の 適 正 配 分 に 資 す る 取 引 の 実 現 と 良 質 な サ ー ビ ス の 提 供 を 支 え る「人 へ の 投 資」を 重 視 し、広 く 波 及 ・ 浸 透 す る 取 り 組 み を 行 い、さ ら に は、J R 産 業 を 一 体 的 に 支 え る 協 力 会 社 に も 同 様 に 拡 げ て い く こ と で「底 上 げ ・ 底 支 え」「格 差 是 正」を 一 層 図 っ て い く こ と と し た。

J R 産 業 の 健 全 で 持 続 的 な 発 展 に む け、職 場 で 奮 闘 す る す べ て の J R 関 係 労 働 者 の 負 託 に 応 え る べ く、J R 7 単 組 お よ び グ ル ー プ 9 3 単 組 が 一 丸 と な っ た 総 が かり の「統 一 闘 争」を 展 開 す る 意 思 を 確 認 し 合 い、松 岡 会 長 の 団 結 ガ ン バ ロ ー で 閉 会 し た。

<JR7単組の具体的な要求内容>

<正規社員に関する要求内容>

- 1) 定期昇給は労使間で協定化されていることから、年度初における完全実施（賃金カーブ維持相当分）を求める。
- 2) JR各単組は**月例賃金総額 6,000 円以上の引き上げ**を求める。
- 3) そのうち **3,000 円について純ベア統一要求**を行う。
- 4) 純ベア統一要求以外の賃金引き上げ要求については、総合生活改善や格差（雇用形態間、男女間等）是正の観点にたつて各単組において判断することとする。
なお、その際、各単組は**ワーク・ライフ・バランスの実現に資する要求項目を盛り込む**こととする（例：長時間労働抑制のための超過勤務手当単価の引き上げや少子化対策としての扶養手当増額等）。
- 5) 要求方式は、平均賃金引き上げ方式と個別賃金引き上げ方式の併用とする。

<非正規労働者に関する要求内容>

- 1) 時給の引き上げ
 - i) **時給については「誰もが時給 1,000 円」の実現をめざす。**
 - ii) 正社員との均等待遇の観点から、**昇給ルールの導入・明確化の取り組みを強化する。**昇給ルールが確立されている場合は、その昇給分を確保したうえで、「働きの価値に見合った水準」を追求する。
 - iii) **時給引き上げについては、正社員との均等待遇の観点から、40 円を目安に求める。**
 - iv) 「都道府県別リビングウェイジ」を上回る水準をめざす。
- 2) 月給の引き上げ
月給制の非正規労働者の賃金については、正社員との均等待遇の観点から改善を求める。

<グループ労組の具体的な要求内容>

<定期昇給制度が確立されている単組>

- 1) 定昇の確保を前提に**月例賃金総額の「6,000 円以上」引き上げを目安**とする。
- 2) **そのうち 3,000 円を目安に純ベア統一要求**として求める。
- 3) 純ベア統一要求以外の賃金引き上げ要求については、総合生活改善や格差（雇用形態間、男女間）是正の観点にたつて各単組において判断することとするが、各単組は**ワーク・ライフ・バランスの実現に資する要求項目を盛り込む**こととする（例：長時間労働抑制のための超過勤務手当単価の引き上げや少子化対策としての扶養手当増額等）。

<定期昇給制度が確立されていない単組>

- 1) 定昇が確立されていない単組は、**月例賃金総額の「10,500 円以上」引き上げを目安**とする。
- 2) **そのうち 4,500 円を定期昇給相当分、3,000 円を目安に純ベア統一要求**として求める。
- 3) 純ベア統一要求以外の賃金引き上げ要求については、定昇制度が確立されている単組と同様に取り組むこととする。

※ 別紙 . . . 委員会宣言

以 上

委員会宣言(案)

本日、私たちはホテルアソシア静岡において第31回中央委員会を開催し、JRの責任産別として、安全の確立、2019春季生活闘争勝利、民主的な労働組合・労使関係の構築と組織強化・拡大、政策課題解決、さらには統一地方選挙・参議院議員選挙必勝への取り組みなどを柱とした当面する活動方針を満場一致で決定した。そして、以下の重要課題に対し、JR連合加盟100単組・組合員8万3千人が一丸となり総がかりで取り組む決意を固め合った。

第一に、福知山線列車事故、羽越本線列車事故をはじめとする重大事故の反省と教訓を胸に刻み、風化させることなく、何よりも安全を最優先する取り組みを継続する。第27回定期大会以降に発生した4件の労災死亡事故をはじめ、近年の労災がグループ会社や協力会社で相対的に多く発生している現状を重く受けとめなければならない。JRグループ全体の安全確立にむけて、「安全は絶対に譲らない」という信念のもと、安全衛生活動をはじめ、原点である職場からの取り組みを粘り強く積み重ね、真に実効性ある対策を展開する。

第二に、2019春季生活闘争では、日本経済の自律的な成長の創出にむけて、継続した所得の向上による消費の拡大が強く求められ、そのためには賃上げが必要不可欠である。また、JRグループも深刻な労働力不足の問題を抱えており、将来を見据えた労働力の確保のためにも、諸労働条件や働き方をより魅力あるものに変えていかななければならない。だからこそ、私たちは「中期労働政策ビジョン(2014~2018)」で掲げたJR関係労働者のあるべき労働条件を実現するべく、「月例賃金の引き上げ」に徹底してこだわる闘いを展開する。そして、ワーク・ライフ・バランスの実現や女性活躍推進をも強く意識し、すべての労働条件を点検し改善を図る「総合生活改善闘争」に注力する。さらに、グループ会社の発展こそがJR産業の持続的な発展の命運を握るとの認識を共有し、協力会社を含め、すべてのJR関係労働者の労働条件の「底上げ・底支え」「格差是正」にむけた取り組みを推進する。

第三に、民主化闘争については、JR東労組における組合員の大量脱退、JR東日本の労政転換は一定の前進と捉えられるものの、JR北海道やJR貨物には波及しておらず、さらには、大多数の社員が労働組合に未加入のまま「労働組合不要論」が蔓延している現状は極めて憂慮すべき問題である。JR連合は「あるべき労働組合像・労使関係像」を掲げ、JR産業の持続的な発展のために不可欠である、すべてのJRグループにおける自由で民主的な労働組合・健全で建設的な労使関係の構築にむけて全力を傾注する。

第四に、JR産業が将来に亘り経済・社会に貢献し、働く者が希望を持てる産業であり続けるためには、山積する政策課題を1つでも多く解決していかななければならない。特に、地域における人流・物流ネットワークの持続的な維持・発展は、交通・運輸事業者や沿線自治体のみならず、すべての関係者が集い「チーム公共交通」「チーム地域共創」の具現化を図る取り組みがなされてこそ実現可能となることから、加盟単組や連合および交運労協に集う仲間との連携を一層強化し、政治活動とも密に連動した、主体的かつ機動的な政策活動を展開する。

最後に、今春の統一地方選挙と今夏の参議院議員選挙は、国政における‘一強の現状’を打破する反転攻勢への転換点とするためにも、組合員全員参画による大きなうねりを創り出さなければならない。JR産業が抱える多くの課題の解決を図るためにも、全組合員が「政治には無関心でいられても無関係ではられない」ことを自覚し、推薦候補者の必勝にむけて、JR連合の組織の総力を結集し、働く者の声を政治へと届けていく取り組みを展開する。

以上、宣言する。

2019年2月5日

日本鉄道労働組合連合会
第31回中央委員会